喰らえ！

山口

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
喰らえ！

【Ｎコード】
Ｎ２７７２Ｌ

【作者名】
山口

【あらすじ】
どうぞ喰らってください。

俺は今、人生最大の危機を迎えている。
目の前に、世にも怖ろしい料理が三品も並べられているのだ。
生ゴミを皿にぶちまけたとしか思えない炒め物。血の池地獄を思わせる毒々しいスープ。常温で十日くらい放置したんじゃないかと疑わせるような、すえた臭いのするチャーハン。
できれば食べたくないけれど、そうもいかない。最近冷たい彼女が、わざわざ俺のために作ってくれた手料理だからだ。
しかし、食べるには勇気がいる。箸を持ったまま躊躇していると、彼女が微笑んで言った。
「どうしたの、食べてよ」
ウェーブのかかった茶髪の間からのぞく端正な顔が、プレッシャーをかけてくる。俺は遂に覚悟を決め、炒め物を口に運んだ。

気がつくと、俺はお花畑を歩いていた。遠くで老人たちが手を振っているのが見える。誰だろうと思ってじっと見てみると、亡くなったはずの祖父と祖母だった。俺は思わず「やばい！」と叫んだ。

再び気がつくと、俺は机の上に突っ伏していた。どうやら殺人的なまずさによって、あの世に逝きかけてしまったらしい。
さぞ心配をかけただろうと思い彼女に視線を移すと、あろうことか携帯をいじっていた。やがて彼女は俺に気づき、申しわけなさそうに口を開いた。
「こんな女、嫌だよね。別れたくなったでしょ？」
俺は慌てて首を振った。
「そんなことないよ！」
「ふーん、そうなんだ」
彼女はしばらく沈黙した後、おもむろにこう言った。

「実は私、好きな人ができてさ」
俺はショックのあまり口から魂が抜けてしまい、二度目の臨死体験をすることになった。
人生なんてこんなもんさ。はは、ははは……

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2772l/

喰らえ！

2011年10月7日02時35分発行